

(1)イメージマップ作り

めあて…平和学習に出てくる地名と場所を知ろう。

先生の指示に従いながら、p2の進め方に沿ってイメージマップを完成させよう。

沖縄本島の地図をかいて、①～④の場所にしるしをつけよう。

- ① 読谷村・チビチリガマ
- ② 糸満市・ひめゆり資料館
- ③ 南風原町・陸軍病院壕
- ④ 那覇市安里・

(2) 沖縄県平和祈念資料館見学に行く前に事前学習をしよう。

① 第一展示室「沖縄戦への道」

明治政府は、琉球王府に対して、武力を背景にした※1「琉球処分(りゅうきゅうしょぶん)」を断行しました。それにともない、沖縄県は※2皇民化政策(こうみんかせいさく)によって急速に日本化を進めました。一方、近代化を急ぐ日本は、※3富国強兵策(ふこくきょうへいさく)により軍備を拡張し、近隣諸国への進出を企てました。※4満州事変(まんしゅうじへん)、※5日中戦争、及び太平洋戦争へと拡大し、沖縄は十五年戦争の最後の決戦場となったのです。

※1 琉球処分…1867年明治維新により、天皇を中心とした政府がうまれた。これによって廃藩置県が実施される。琉球王国では尚泰王のころ。明治政府は琉球の尚泰王に対し「琉球藩の王」と任命した。つまり、約500年間続いた「琉球王国」を、日本の天皇が任命する「琉球藩」と位置付けたのだ。そして、1879年、琉球王国は廃止され、沖縄県となった。

※2 皇民化政策…天皇中心の国家に忠誠な国民をつくること。

※3 富国強兵策…明治政府が国の力を充実させるために、産業の育成や軍備の強化を図った政策。

※4 満州事変…1931年満州(今の中国東北)で起きた日本軍と中国軍の武力衝突のこと。実質的には日本軍による中国への侵略戦争。

※5 日中戦争…満州を支配した日本は1937年に、さらに中国北京郊外で中国軍と衝突し、日中戦争がはじまった。日本は南京を占領したが、中国はアメリカ、イギリスを味方につけて戦争が長期化。そのまま解決のつかないままに1941年、太平洋戦争へと突入してしまう。

第一展示室では、琉球王国として栄えていた沖縄が、明治時代から日本の一つの県として、どのような経過をへて、沖縄戦につきすんでいったのかを、日本やアジアの様子との関わりで学習するよ。

②第二展示室「鉄の暴風」

沖縄戦において、日米両軍は、総力を挙げて死闘をくりひろげた。米軍は※1物量作戦(ぶつりょうさくせん)によって、空襲(くうしゅう)や※2艦砲射撃(かんぱうしゃげき)を無差別に加え、おびただしい数の砲弾を打ち込んだ。この※3「鉄の暴風」は、およそ三ヶ月に及び、沖縄の風景を一変させ、※4軍民20数万の死者を出すすざましさであった。

※1 物量作戦…軍艦 1,300 隻超、飛行機 1,700 機以上、上陸部隊 18 万人という大軍勢を投じて沖縄戦に乗り出した。アメリカ軍の圧倒的な物量作戦を前にして、迎え撃つ日本軍は牛島満中將、大田実少將が率いる兵力 10 万人弱と風前の灯であり、ともかく数だけは確保しようと沖縄の民間人 2 万 5 千人を動員、無残にも女学校の上級生 600 人まで徴用して「ひめゆり部隊」などに編成した。

※2 艦砲射撃…軍艦が搭載する大砲で攻撃をすること。沖縄戦ではおびただしい数の艦砲射撃で、地形が変わったとも言われる。

※3 鉄の暴風…米軍は戦車を先頭に火炎放射器で攻撃、ガマには爆雷を投げ、海からは艦砲射撃、空からは戦闘機による爆撃と、容赦のない攻撃を続け、たくさんの命が奪われた。その時の米軍の攻撃は、一坪(たたみ2枚分の広さ)に、200発の弾丸が撃ち込まれたというほどすざましいものだった。

※4 沖縄戦の戦死者数…「平和の礎」には、国籍、軍人、民間人、に関係なく、沖縄戦で亡くなった方の名前が刻銘されている。2008年現在では240734名のものにも上っている。その半分以上が、沖縄の民間人であったと言われ、当時の沖縄県人口57万人の20%の人がなくなった計算になる。

第二展示室では沖縄戦の戦闘の経緯や住民犠牲の様子が学べ、

沖縄戦の特徴を知ることができる。

また、写真や遺留品、砲弾なども見ることができるよ。

③第三展示室「地獄の戦場」

日本守備軍は、首里決戦を避け、※1南部へ撤退し、※2出血持久戦をとった。その後、米軍の強力な掃討戦(きとうせん)により追いつめられ、軍民入り乱れた悲惨な戦場と化した。壕の中では、日本兵による住民虐殺や、強制による※3集団死、餓死があり、外では砲爆撃、火炎放射器などによる殺戮(さつりく)があった。まさに※4阿鼻叫喚(あびきょうかん)の地獄絵の世界であった。

※1 南部撤退…日本軍は米軍の猛攻に屈し、司令部のある首里一帯は西、北、東の三方向から米軍に包囲された。5月27日、司令部壕を捨て、南部の摩文仁方面へ撤退した。南部にはガマが多く、身を隠すのに適していたからだ。

※2 出血持久戦…南部撤退を決めるころ、日本軍は戦力の大半を失っていた。司令部は「総攻撃による玉砕」か、「持久戦」か意見が分かれたが、持久戦をとることを選び、南部へ撤退した。その理由は米軍が日本本土に上陸するのを遅らせるための時間稼ぎつまり「捨て石作戦」であった。

※3 集団死…当時の日本では、「アメリカ軍に捕まったら、おそろしい目にあう」「生きて捕虜になるのは日本国民として恥ずかしいことであり、捕まる前に死ぬべし」などと教えられていた。だから、アメリカ軍に捕まる前に自ら命を絶つ集団死が起こった。小さい子を母親が殺すことも少なくなかった。

また、読谷村のチビチリガマでは投降に応じることなく、83名が亡くなった。しかし、同じむらのシムクガマでは集団死は起こらなかった。ハワイ移民帰りの2人の住民が、アメリカ兵と対応し、「アメリカ兵は捕虜は殺さない」と、身を隠していた約1000人の避難民を説得したからだ。

※4 阿鼻叫喚…非常な苦しみやむごたらしい様子の中で泣き叫び、救いを求めること。

第三展示室では沖縄戦の戦場の様子を追体験できるようになっている。

洞窟を再現したコーナーでは、4つの場面、

「避難民と日本兵」「野戦病院、青酸カリ」「作戦会議、斬り込み隊」「投降ビラ、スパイ視」で構成されていよ。

④第四展示室「住民の見た沖縄戦 証言」

沖縄戦の実相(じっそう)を語るとき、※1物的資料になるものは非常に少ない。無念の思いで死んでいった人たちを代弁(だいべん)できるのは、戦争を体験した住民による証言しかない。忌まわしい記憶を心に閉ざした人々の※2重い口から、後世に伝えようと※3語り継がれる証言の数々は、歴史の真実そのものである。

※1 物的資料…沖縄戦では住民側の資料が少なく、当時の様子を知るには、沖縄戦を体験した人の証言が大変貴重になっている。映像ブースでは 100 人の方の証言をみることもできる。

※2 重い口…証言の多くは目の前で家族や友人が亡くなったこと。自分だったら、普通そんな壮絶な体験をしたら、思い出すのも恐ろしく、悲しい気持ちになる。しかし、戦争を知らない私たちのために、過去のつらい記憶を勇気を振り絞って語ってくれた、145 人の証言を読むことができる。

※3 語り継がれる証言…沖縄戦を生き延びた人たちが直接戦争体験を語る時代が終わろうとしている。「ひめゆり学徒隊」として生き延び、「ひめゆり平和資料館」での講話も平成 27 年 3 月末で終了する。戦後 70 年を迎えた現在、語りべの方の年齢が 86 歳～89歳と高齢となったからだ。だから、私たちがきちんと聞き、学び、感じ、次の世代に語り継がなければならない。平和のバトンを引き継がなければならないのだ。

普通、戦争って大人の男性が兵隊として戦うイメージだよね。

展示室の写真で分かるように、子どもから老人まで戦闘に巻き込まれて、兵隊としてかり出されたんだよ。

⑥第五展示室「太平洋の要石」

沖縄の戦後は※1収容所からはじまった。その後、アメリカ・ソ連を軸とした※2冷戦構造の中で軍事基地として強化される沖縄。※3土地を奪われ、抑圧を受けてきた住民の怒りは、島ぐるみの土地闘争や※4復帰運動へと広がっていく。東西冷戦が終わった今もなお、世界各地にくり広げられる※5民衆の悲劇。沖縄の教訓は「平和の要石」を通して世界中に発信される。

※1 収容所…沖縄戦で難民となった人々は、米軍によって各地につくられた収容所に送りこまれた。沖縄戦の終わりごろになると、収容所は身を隠していた人々が続々と投降（投降）してきて、あふれかえった。その時の様子は、わずかな配給食料で飢えをしのいだり、米軍による乱暴があったりと、苦しい生活であった。また、米軍からの配給食料の中にはポーク缶、チーズ、チョコレート、ガム、など、沖縄のほとんどの人たちが初めて口にする食べ物ばかりであった。このときの経験が、「ポーク卵」などのメニューが生まれるなど、戦後沖縄の食生活にも大きな影響を与えた。

※2 東西冷戦…ソビエト（今のロシア）を中心とした主に東ヨーロッパ諸国の共産主義国と、アメリカを中心とした主に西ヨーロッパ諸国の資本主義国が、軍事、外交、経済、だけでなく宇宙開発や文化スポーツなどでも競い、対立していたこと。戦火は交えていないものの、はげしく対立していることを言いあらわした言葉。

※3 土地を奪われ…沖縄の住民が収容所に収容されているあいだ、米軍は広大な軍用地を囲い込んでいた。土地を奪われた人々は収容所から解放されても帰る故郷がなく、八重山やポルビアへ集団移民させられた人々もいた。1952年サンフランシスコ平和条約が発効すると、無理やり土地の主と契約したり、1953年には、立ち退きを拒否する住民の前で、家ごとブルトーザーで土地をしきならす事件も起こった。

※4 復帰運動…「鉄の暴風」を生き延びた県民に待っていたのは、「平和の島沖縄」ではなく「米軍支配」という異民族支配だった。土地を奪われた住民たちの反対運動へも、米軍は「ネズミ（沖縄）はネコ（米軍）の許す範囲内でしか遊べない。」と、全く耳を貸さなかった。さらに、沖縄の中学生が青信号を渡っているのに、米軍の車が突っ込んで死亡した事故でも、米軍の裁判で「無罪」になる事件、ジェット機の墜落、実弾演習による自然破壊、騒音、…基地被害は後を絶たなかった。沖縄住民が平和で豊かな島を築くために、基地の撤去と平和憲法を持った日本への復帰を願い、1972年5月15日、沖縄は日本へ復帰した。

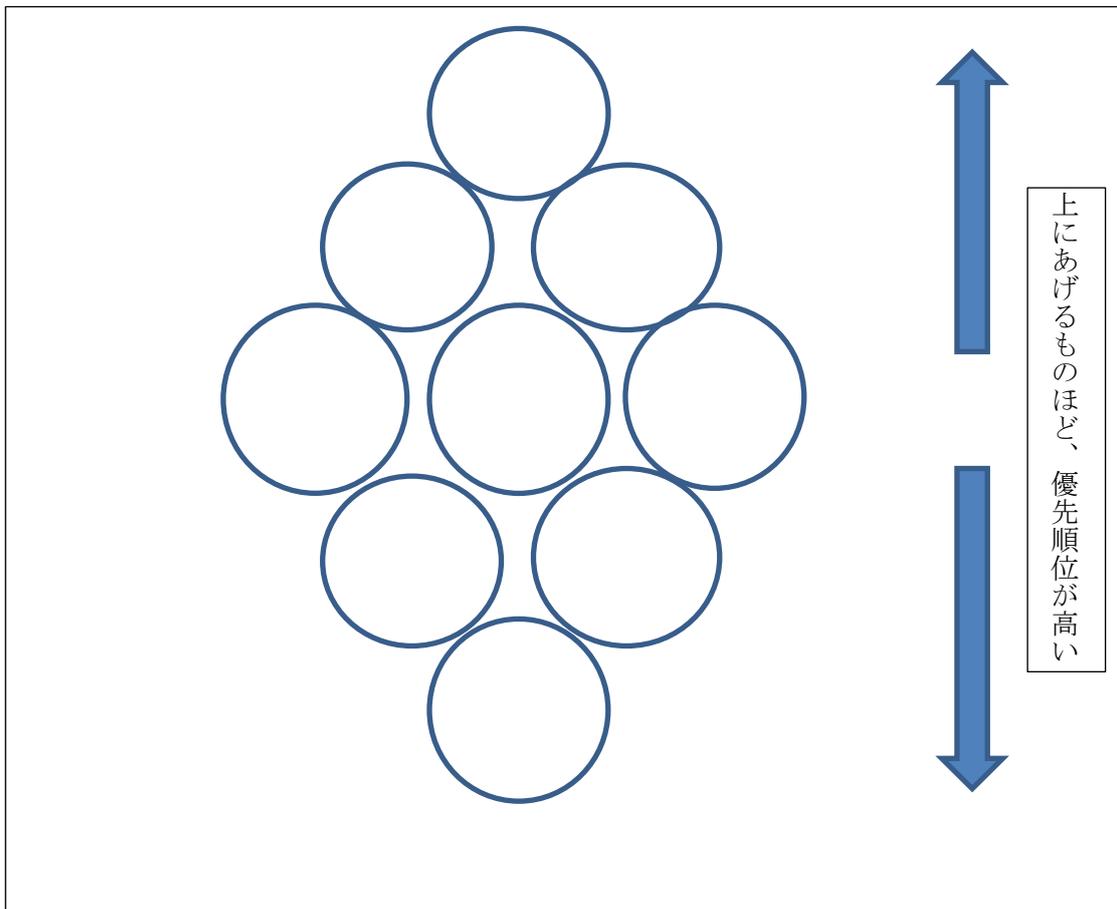
※5 民衆の悲劇…今もなお世界の各地では紛争や戦闘が行われ、罪のない民間人がたくさん犠牲になっている地域があるということ。

(3) アニメ「ひめゆり」を視聴し、事前学習のまとめをする

①アニメ「ひめゆり」を観てどんなことが印象に残ったでしょうか。あなたが「ひめゆり」について誰かに話すとしたら、どんなことを伝えたいですか？次のA～Iの中から、「伝えたい」「伝えるべき」と思うものをランキングして、上からひとつずつ記号を書き入れてください。

「I その他()」には、自分なりの項目を考えてください。

- A 戦争のむごたらしさ、恐ろしさ
- B 楽しかった学園生活が戦争によって変わってしまったこと
- C 日本軍の非情さ
- D 国のために献身した(けんしん)学徒隊
- E 沖縄陸軍病院の悲惨な状況
- F 命と平和の大切さ
- G 生徒たちを戦場に向かわせた教育の恐ろしさ
- H 生き残った人たちの心の痛みや悲しみ
- I その他()



ワークシート「わたしの気持ち」

◇平和学習を通して、あなたの気持ちに最も近い3つに○をつけましょう。

◇リストにないあなたの気持ちを空らんに書きましょう。

おどろいた	おもしろい	かわいそう	くだらない
腹が立つ	わけが わからない	しかたが ない	心配だ
自分には 関係ない	わくわくする	興味がない	悲しい
こわい	くやしい	うれしい	

◇なぜ、この3つにしたのか、理由を言いましょう。